

# 広報させば 情報カレンダー 03. 6月



日	月	火	水	木	金	土	
6月は環境月間 6月1日～7日は水道週間			毎月第1水曜 中小企業金融公庫出張相談 (13～15時、佐世保商工会議所)				
			毎月第2金曜 発明相談(10時～15時30分、市役所10階) 貴重な水辺の生きものたち展(5月31日～8月31日)				
1 動植物園誕生祭	2	3 アイマックスドームシアターのフィルムフェスティバル ～30日	4 中小企業金融公庫出張相談	5 環境の日 プラネタリウム館・臨時休館	6	7 早岐茶市 ～9日 市中学校体育大会 ～9日	
8	9	10	11	12	13 発明相談 子育て支援・ツインズちゃん	14	
15 えぼしフェスタ 総合グラウンドのプール開き	16	17	18 佐世保空襲写真展 ～27日	19	20	21	
22	23 出前保育「みんなよっといでー!」	24 女性の悩み相談所の開設	25	26	27	28 させば男女共同参画週間フォーラム	
29 国民健康保険の日曜相談 佐世保空襲死没者追悼式	30	7月のおもな行事予定 7/2 出前保育「みんなよっといでー!」 7/5 佐世保っ子育てパレード 7/6 市少年の主張大会					

## テレホンガイド

### 救急・火災

医療機関案内 ☎23-8199

火災情報 ☎0180-999-999

### 女性相談

スピカ ☎24-6180

(水曜と祝日を除く毎日、9時～16時)

### 教育相談

青少年教育センター ☎22-0077

(毎月第2、4木曜の17時30分～

20時30分には、夜間相談も受け付けます)

### エイズ相談

保健所健康づくり課

☎0120-104-783

### 6月の健康テレホン

県保険医協会 ☎23-4300

3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます

月 食中毒 火 意外と多い膝半月板損傷

水 子どもと睡眠 木 眼がびくびくする

金 ボケと物忘れのちがい

土、日 手術によらない前立腺がんの治療

## 人のうごき

(5月1日現在)

総人口 240,300人 (+1,640)

男 113,093人 (+1,104)

女 127,207人 (+536)

世帯数 93,257世帯(+1,027)

### 4月中のうごき

転入 2,981 転出 1,330

出生 183 死亡 194

## 見て、聞く させば 市政だより

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)

NBC(9時25分) NIB(11時25分)

NCC(11時40分) KTN(17時25分)

### ラジオ

NBC 毎週日曜日 9時10分

FM長崎 毎週火曜日 9時05分

FM長崎マイシティ 毎週土曜日 8時55分

マイタウン

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄

## 窯元を巡って新緑の季節を満喫

～三川内焼・はまぜん祭り～



三川内焼は、白磁に映える唐子絵や、繊細な透かし彫りの魅力で知られています。

その焼き物を陰で支える「はまぜん」に感謝し、窯元が一般公開される「三川内焼・はまぜん祭り」が、5月1日から5日まで開催されました。

三川内皿山周辺では、絵地図を頼りに窯元を巡る「スタンプラリー」や、競り合って落札価格を決める「オークション」などもあり、佐世保市内外から多くの焼き物ファンが訪れました。

窯元巡りの楽しみは、掘り出し物との出会いに加えて、三川内焼について気軽に質問ができることです。「唐子の人数は3、5、7人」「素焼きの窯の温度は約900度、本焼きは約1300度」という豆知識を得て、納得顔で唐子の皿を眺める男性もいました。

窯元や史跡巡りのコース途中には、休憩所を兼ねて、お茶席やカフェテラスも設けられていました。新緑の中で、ウグイスの声を聞きながら、三川内焼のカップに注がれたコーヒーをひと口。カップを手にする人たちの笑顔は、三川内の「魅力再発見」の喜びの表れかもしれません。

## 歴史散歩

れきしさんぽ  
455

### 58年前の傷あと(天神5丁目)

天神小学校の南にこの地の旧家、白川稔さん宅があります。庭に1本の柿の木が植えてあり、幹には玄関と向き合う側に深い傷ができています。この傷は、58年前の6月29日、太平洋戦争末期にアメリカ空軍による爆撃を受けた際、焼け落ちた母屋の炎でできた傷あとなのです。

昭和16年12月、日本軍のハワイ・パールハーバー攻撃で始まった太平洋戦争は、アメリカ、イギリスを中心とする国々を相手にした戦争でしたが、圧倒的な国力の差で、昭和20年8月、日本が降伏して終わりました。敗戦前、B29と呼ばれたアメリカ軍の爆撃機は、日本の主要都市を焼き払う焦土作戦を繰り返し、全国に大量の焼夷弾を投下したのです。



ポカッと立っていた」とあり、樹の悲鳴が聞こえてくるようです。(筒井隆義)

